

「ふれあい」は 心と心をつなぐもの

私は、メンタルケアを中心とした訪問看護を行っているため、精神的に不安定な利用者さんの心を乱さないよう、できる限り普段と変わらない姿勢でサービスを行うようしています。対面でのコミュニケーションが重要視される分野だからこそ、感染防止策とのバランスが難しいと感じています。

オンラインで職員同士の情報共有や利用者さんと面談を行うと効率的ですが、心と心をつなぐものは「ふれあい」です。そのため、実際に会って話す重要性を改めて実感した1年でした。



看護師・40歳代

家族の力は素晴らしい

介護施設では、家族との面会や利用者同士の交流会ができなくなるなど、利用者さんの楽しみが少なくなった1年だと感じています。中には寂しさのあまり、だんだんと表情が暗くなっていく利用者さんもいました。

家族とのウェブ面談を実施した時は、画面越しにでも家族の様子がわかることで、利用者さんの表情がとても明るくなり、家族の力の素晴らしさを感じました。

今後も、利用者さんに良い思い出をつくってもらえるよう、積極的に行動していきたいと思っています。



介護士・40歳代

人とのつながりに感謝

今年は感染症の影響で、お客さんが半分程になってしまい、大変な1年でした。生演奏の曲を聞きながら食事を楽しめるイベントも開催しているのですが、感染症予防のため、完全予約制で実施しています。緊急事態宣言の時はテイクアウトのメニューを増やしたり、ネット注文のシステムを利用したりして対応しました。

そんな中でも、常連のお客さんが以前にも増して来店し、応援してくださったことが本当に嬉しく、つながりの大切さを感じました。



飲食業・50歳代

家族と過ごす 時間が増えました

感染症が広がるまでは、地域子育て支援センターや子ども向けイベントなどによく出かけていましたが、自宅や近くの公園で遊ぶことが増えました。そのため、ママ友同士のコミュニケーションや情報交換の機会が少なくなったように感じています。

しかし、パパが仕事の都合で家にいることが多くなり、家族で過ごす時間が増えたことは、子どもにとって嬉しかったみたいです。



主婦・20歳代

人 とつながる ～2020年を振り返る～

誰もが予想だにしていなかった、新型コロナウイルス感染症。市民のみなさんの暮らしも一変したのではないのでしょうか。感染症予防のため、ソーシャルディスタンスが求められる一方で、改めて人との「つながり」の大切さを感じた1年であったかと思えます。まちのみなさんに今年1年を振り返っていただきました。

娘と楽しい時間を

感染拡大による外出自粛の影響で、中学生の娘と過ごす時間が多かったことが一番の出来事です。

普段は朝食を一緒に食べるくらいで、娘と関わる時間がなかなかとれませんでしたが、学校が休校になった期間に、私も仕事が休みになってしまったため、幸い一緒に家事をするなど、娘と楽しい時間を過ごすことができました。



会社員・30歳代

地域愛が支えに

私が働く美容室では、感染症の影響で来店されるお客様が少なくなりましたが、その期間はカットなどの技術を磨いたり新しいメニューを考えたりしていました。

そして、眉やまつ毛のメンテナンスといった目元を中心としたメニューなど、マスクを着けていても喜ばれるサービスを考えています。

お客様の中には、経営を心配し商品を購入していただいたり差し入れをもってきてくれる方もいて、地域の方々に愛されていることを改めて実感しました。



美容師・40歳代

コミュニケーション力 を育む機会を増やしたい

保育園では、子どもたちの検温やおもちゃの消毒など、感染症予防の業務が多くなった1年でした。子どもたちにとっても、通園日数が減ったり、年間行事の規模が縮小されるなど、辛かったと思います。

一方で、子どもたちも状況を良く理解しているのか、手洗いやアルコール消毒を積極的に実施してくれるようになった点は、良かったと思います。

状況を考慮しながら、少しずつ子どもたちの経験やコミュニケーション力を育む機会を増やせたらと考えています。



保育士・30歳代

仲間と共に学ぶ 大切さを再認識

これまでの授業は、グループワークなどコミュニケーションを中心としたものでした。しかし、5月末以降は、感染症防止の観点から、講義形式の授業に変更しました。子どもたちは、一人で考え理解する必要があるのも、普段に比べて理解が難しい様子でした。

一方で、学校の文化や風習を見直すきっかけになったと感じています。子どもにとって本当に必要なことを精査しながら、学力向上に繋がる、より良い授業ができればと考えています。



教員・30歳代